



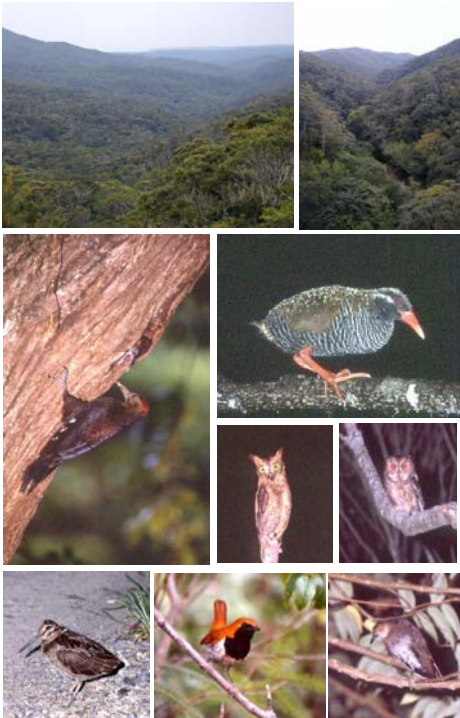
やんばるの森に ヘリパッドはいらない



WWFジャパン・ブロッコリーの森を守る会

やんばるの森の生物多様性

国頭山地分水嶺の東側には、在沖縄米国海兵隊の北部訓練場(約7,500ha)があり、イタジイ、オキナワウラジロガシなどが優占する自然林(10-15m)や溪流がよい状態で残され、多様な生物種の生育地、生息地となっています。ここでは4,000種を超える極めて多くの野生生物が記録されました。やんばるの固有種(固有亜種を含む)は、植物が12種、動物が11種記録されています。レッドデータブック記載種も、沖縄県版188種、環境省版177種とたいへん多いのです。北部訓練場およびその周辺のやんばるの森は、多くの固有種、固有亜種、絶滅のおそれのある種を含む生物多様性に富んだ重要な自然環境です。



米軍ヘリパッドの悪影響

この北部訓練場(ジャングル戦闘訓練センター)の北半分(約4,000ha)が日本に返還される予定です。しかし、6か所のヘリパッド(直径45mの着陸帯と周囲15mの無障害物帯、合計75m)と進入路の建設が条件になっています。これらが建設され軍事演習が行われた場合、森林とそこに棲む野生生物に大きな悪影響をおよぼすと考えられます。



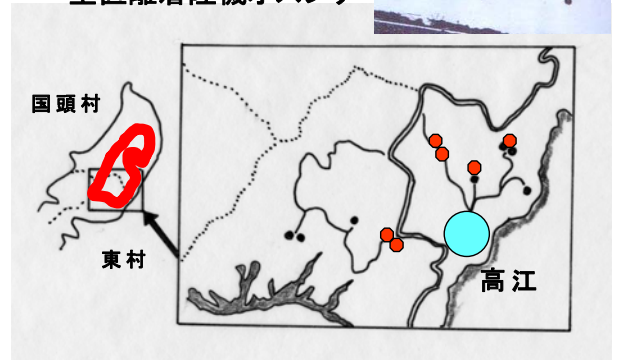
北部訓練場ゲート

垂直離着陸機オスプリー



ヘリパッド建設の中止を求める

北部訓練場の自然環境と野生生物は、世界自然遺産の価値があります。IUCN(国際自然保護連合)は、日米両政府に、米軍ヘリパッド建設に関し、ゼロ・オプション(造らないという選択)を含む代替案の検討、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保護区設定と保全行動計画の作成を勧告しました(2000年、2004年)。ヘリパッドに隣接する東村高江地区の住民の安全で平穏な生活を守るためにも、政府はヘリパッド建設計画を中止するべきです。



米軍ヘリパッドの建設予定地(6か所 ●)

(黒丸は当初案の7か所)



for a living planet®

WWF Japan
〒105-0014
東京都港区芝 3-1-14
Tel: 03-3769-1711
Fax: 03-3769-1717

2007年6月14日

米軍北部訓練場のヘリパッド建設の中止を求める

WWF ジャパン
(世界自然保護基金ジャパン)

WWF ジャパンは、多くの固有種、希少種が生育・生息する沖縄島山原(やんばる)の森を、優先的に保護すべき地球上の重要な自然環境のひとつに位置づけ、保護活動を行なっている。米国海兵隊北部訓練場の新たなヘリパッド建設は、やんばるの自然環境を破壊し、地域住民の平穏な生活を脅かすため、建設の中止を強く求める。

北部訓練場(ジャングル戦闘訓練センター)には、沖縄島北部の亜熱帯性常緑広葉樹林が良好な状態で残されている。この森は、地球上でここだけに生息するノグチゲラ、ヤンバルクイナなど、数多くの固有種、固有亜種、絶滅のおそれのある種の重要な生息地となっている。

那覇防衛施設局の「環境影響評価図書(2006年)」を見ると、ヘリパッド建設予定地とその周辺では、4,000種をこえる野生生物が記録されている。このなかには、植物で12種、動物で11種の固有種・固有亜種、177種(環境省)から188種(沖縄県)の絶滅のおそれのある種が含まれている。これは、世界自然遺産の選定基準のひとつである「世界的な価値の絶滅のおそれのある種を含む生物多様性の保存のための重要な自然の棲み場所がある地域」という項目を十分に満たしている。

沖縄島では、復帰後の開発により森林が失われてきた。しかし、約7,500haの面積を有する北部訓練場の森林は自然状態で残され、野生生物の避難場所(レフュージ)となっている。生物多様性に富む貴重な自然環境を破壊し、その価値を失わせる6か所の軍用ヘリパッドと進入路を造るべきではない。

IUCN(国際自然保護連合)の世界自然保護会議は、2000年(アンマン)と2004年(バンコク)の2度にわたり、ノグチゲラ・ヤンバルクイナとその生息地の保全を勧告した。日本政府に対しては、生物多様性と絶滅のおそれのある種の保全計画を作成すること、自然遺産への指名を検討すること、保護区の設置と保護の行動計画を作成すること、ヘリパッドに関するゼロ・オプション(造らない選択)を含む環境アセスメントを実施することを勧告し、アメリカ政府に対しては、米軍の環境管理基準をもとに野生生物保護の観点から日本政府と協議すること、日本政府の環境アセスメントに協力することを勧告している。

日米両政府は、それぞれの政府が加盟しているIUCN(国際自然保護連合)の勧告に従い、軍用ヘリパッドを建設することではなく、野生生物の生息地を保護することに力を入れるべきである。

前述の那覇防衛施設局の「環境影響評価図書」では、環境への影響を回避・低減し、保全措置をとることによって、環境保全上特に問題はないとしている。しかし、この報告書自体が環境アセスメント法の対象外とされ、ヘリパッドの建設を前提に書かれているため、その手続きも含めて正当な環境アセスメントにはなっていない。回避、低減などの措置も実効性は疑わしい。環境保全上問題はないと言う結論は、明らかに間違いである。むしろ、同書の環境現況調査の結果からは、科学的に、保全生物学的に検討すれば、ヘリパッドの建設と軍用機による訓練は、自然環境と野生生物へきわめて大きい影響をおよぼすと予測されるので、建設は不相当であり断念すべきという結論が導き出されるはずである。

6か所の米軍ヘリパッドは、東村高江地区を取り囲むように計画されている。直径75メートルのヘリパッドの建設と垂直離着陸機オスプリーによる軍事訓練は、高江の住民の生活環境に大きな悪影響を及ぼす。高江は人口約150人で、中学生以下が20パーセントを占める小さな集落である。居住者を軍用機の耐えがたい爆音や墜落の危険にさらすことは、基本的人権を無視する行為であり、平和で文化的、健康な生活を保障する日本国憲法に背くものである。

なお、2008年に日本で開催されるG8サミットでは、地球温暖化防止と生物多様性保全が環境上の重要なテーマであり、2010年には日本政府が生物多様性条約締約国会議を誘致する予定である。このような時代に、生物多様性に富むやんばるの森に軍用ヘリパッドを建設することは、世界の趨勢から見ても非常識と言わざるを得ない。

以上のことから、WWF ジャパンは、北部訓練場の米軍ヘリパッドおよび進入路の建設の中止を強く求める。

この件に関する問い合わせ先

花輪伸一 WWFジャパン自然保護室

〒105-0014 東京都港区芝 3-1-14 TEL. 03-3769-1713 FAX. 03-3769-1717 E-mail: hanawa@wwf.or.jp

「ヘリパッドいらない」住民の会 (ブロッコリーの森を守る会) 結成アピール

東村のみなさん、沖縄県民のみなさん。

私たちは、那覇防衛施設局が進めようとするヘリパッド建設に反対し、去る7月2日から海兵隊北部訓練場の進入路前で座り込み行動を続けてきました。

7月3日に那覇防衛施設局が訓練場進入路3ヶ所に仮設ゲートを設置したのを始め、シヨベルカーの搬入、深夜作業の着手など多くの動きがありました。しかし、折からの参議院議員選挙などが重なったこともあって、大々的な工事に着手することはありませんでした。

しかしながら、ついに昨日8月23日、那覇防衛施設局職員ならびに請負業者の作業員約50名が私たちが座り込む現場に押しかけ、これまで施錠されていたゲートを開け、作業着手を図ろうとしました。いよいよ本格的な工事に入る構えと思われまふ。

ここに至って、私たちはこれまで村の有志で続けてきた反対運動を、よりしっかりとしたものにするため、本日『「ヘリパッドいらない」住民の会』を結成しました。

村民のみなさん、県民のみなさん。

建設されようとしているヘリパッドは、高江区を中心に数キロ範囲内に6ヶ所も予定されています。すでに東村にはヘリパッドが15ヶ所もあり、今でも昼夜間わず場所問わず、高江上空を飛行訓練しています。これ以上、よりひんぱんに、より近くに、より数多くのヘリコプターが私たちの生活区域を飛び交うというのです。危険極まりない無謀な基地建設といわねばなりません。

私たちは、平穏な生活が爆音と墜落の危険にさらされることに断固反対します。また、県民周知のように、ヘリパッドが建設されようとする地域は、県民最大の水がめ(本島の生活用水の60%を賄う)である福地ダムをはじめ新川ダム、また近隣には安波ダム、普久武ダム、辺野喜ダムが連綿と連なる貴重な水源地となっています。

そしてまた、ヤンバルクイナやノグチゲラなど、ここにしか生息しない貴重な生き物たちが多数生息する、世界遺産にも登録されようとする、大切な、世界にひとつしかない森がここにはあります。この沖縄本島にとっても残された唯一の大森林、やんばるの森を基地建設で破壊させてはなりません。

私たちは本日結成した『「ヘリパッドいらない」住民の会』に集い、村民のみなさん、県民のみなさんのご理解とご支援をおおぎながら、粘り強く反対運動を続けていく決意です。

どうか暖かい目で見守ってください。

戦後62年。今なお米軍の占領下にあるような沖縄。

全県各地いたるところで今なお米軍の横暴にさらされ続ける沖縄。

私たちはこの長い苦難の歴史を勇気と情熱で抗い続けた県民の力に学びながら、ヘリパッド建設に反対し、県民運動に発展させ、建設を阻止するまでがんばりぬく決意です。

どうぞ私たちに力を貸してください。そして共にがんばりましょう。

2007年8月24日
「ヘリパッドいらない」住民の会
会員一同

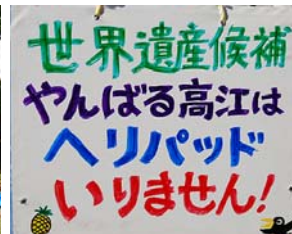


高江からの声

高江の人口は現在157名で、そのうち小中学生14名、未就学児11名です。自然豊かな環境の中で、のびのびと育っています。静かで平和な高江ですが、沖縄のどこへ行ってもある米軍基地が、ここにもあります。日々の暮らしの中で、昼夜構わず、高江の集落上空、授業中の小中学校のすぐ隣を、縦横無尽に爆音を響かせて跳びまわります。さらに07年には、高江に新たなヘリパッド建設が始まりました。このまま工事が進めば高江周辺にヘリパッドが集中し、更なる騒音や事故への不安が増すのは確かです。私たち高江区民はヘリパッド建設に断固反対します。

高江では座り込みが続いています

ヘリパッドの工事を止めるために、高江では昼も夜も、住民や支援者による座り込み抗議行動が続けられています。沖縄防衛局は、高江の西側と北側(N-4, H地区)から工事を行うとしているので、座り込みは、これらの地点に通じる4か所のゲート前で行われています。各ゲートの距離は2-3kmも離れているので、多くの人数が必要です。できるだけ多くの方々が、支援に駆けつけてくれるように、お願いします。半日でも、1日でも、多くの方々が参加していただくと、工事を止めることができます。



WWFジャパン

〒105-0014東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F

TEL 03-3769-1711

FAX 03-3769-1717

<http://www.wwf.or.jp>

ヘリパッドいらない住民の会(通称:プロッコリーの森を守る会)

TEL/FAX: 0980-51-2688 または 090-9789-6396

e-mail: info@nohelipadtakae.org

「やんばる東村高江の現状」ブログ <http://takae.ti-da.net/>

郵便振替 01780-1-65612 払込先名義 プロッコリーの森を守る会

(2008年6月1日改訂)